

論文内容の要旨

氏名	田中 伯
Impact of surgical factors on delayed hyponatremia in patients with nonfunctioning pituitary adenoma after endonasal endoscopic transsphenoidal procedure (和訳) 非機能性下垂体腺腫における経鼻内視鏡下経蝶形骨洞手術後の遅発性低ナトリウム血症の手術因子の検討	

論文内容の要旨

下垂体手術後の遅発性低ナトリウム血症は比較的良く知られている合併症であり、発症すると入院期間の長期化を引き起こす。発症因子については明確になっておらず、また過去の検討においても手術因子の影響は十分に確立されていない。今回手術の直接および間接的な因子を含めて遅発性低ナトリウム血症に及ぼす影響について検討した。方法としては2008年から2019年の間に非機能性下垂体腺腫に対して経蝶形骨洞腫瘍摘出術が行われた連続137例を後方視的に検討した。術前（人工統計学的要素、併存疾患、採血データ）、術中（切除範囲、手術時間、出血量、髄液漏の有無、腫瘍の硬さ）、術後（血腫、髄膜炎の有無、尿崩症の有無、内分泌的データ）のデータを収集し、各因子の統計解析を実施した。結果として137例中、遅発性低ナトリウム血症は31例（22.6%）に発生した。多変量解析の結果、まず高血圧の無い群において遅発性低ナトリウム血症を有意に発症しやすい結果であった（ $p=0.004$ ）。直接的な手術因子の関係は認められなかった間接的な因子と定義した一過性尿崩症の合併、髄膜炎の合併、硬い腫瘍の存在がそれぞれ有意に関連した（ $p=0.001, 0.047, 0.014$ ）。またナトリウム値が重度の低値であると有意に症候化しやすい結果であった（ $p=0.002$ ）。高血圧の有無および、間接的な手術因子である一過性尿崩症の合併、髄膜炎の合併、硬い腫瘍は遅発性低ナトリウム血症に関与することが今回の検討で判明した。高血圧のない患者で腫瘍が硬く、また術後髄膜炎や尿崩症を呈した場合は遅発性低ナトリウム血症に注意する必要がある。